

今は未来のためにある

令和8年度に高める力のキーワード
「あいさつ」、「黙働」、「敬語」、「アンテナ力」

No.3 令和8年4月17日 発行者;校長 小倉 大二

【学校教育目標】

校訓「誠実・勤勉・礼儀」に則り、
思いやりの心を持ち、
新たな価値創造に挑戦する中で、
母校への誇りをはぐくむ生徒の育成

「感じのよいあいさつ」の習慣化を！

登校時のあいさつの様子を見ると、だいたいの生徒が感じのよいあいさつを私にしてくれます。近年は、地域の方から「あいさつが以前よりよくなっている」とよくお褒めの言葉をいただいています。「感じのよいあいさつ」が板についている人は、これからの人生で様々なチャンスを得ることにつながります。ぜひ、自分自身の未来の可能性のため、感じのよいあいさつを身に付けてほしいと思います。

ただ、昨年度の松ヶ江中学校区の小学校・中学校の校長、並びに、PTA 会長、地域の方で構成するコミュニティ・スクール会議の中で、子どもたちは、あいさつはするものの前年度（令和6年度）よりも声が小さいという課題もあがりました。ぜひ、今年度は「声の大きさ」を意識して、TPO（時・場所・場面）に応じた『感じのよいあいさつ』の習慣化」を図られればと考えています。

あいさつ等の人の行動や動きの習得に関する研究で、「形成位相」があります。それにあてはめると、よいあいさつの習慣化に至るまでには以下のような段階があると言えます。ご家庭でも、「今、どのようなあいさつができているか」「下の①～⑤のどの段階なのか」等を話題に、あいさつについての話をする機会をおつくりいただくと有難いです。

- ① よいあいさつをしようと意識していない段階（あいさつをしない）
- ② よいあいさつをしようと意識しているができない段階（大きな声が出せない、目が合わない等）
- ③ どうすればよいあいさつができるか、試行錯誤（反省）する段階（できそうでできない）
- ④ 意識したとき、よいあいさつができる段階（できないときもある）
- ⑤ 意識したとき、よいあいさつがいつでもできる段階（意識してあいさつをしている）
- ⑥ 無意識で、よいあいさつがいつでもできる段階（よいあいさつが板についた習慣化の段階）

【Topic 先言後礼の難しさ】 ご家族でチャレンジしてみてください！

先言後礼とは先に「おはようございます」「ありがとうございました」などの言葉を発し、その後にお辞儀（礼）をするというあいさつの行い方です。このことは小学校5年生以上の道徳科の指導内容でもあり、日本全国で指導されている内容です。しかし、案外「先言後礼」は難しく、「同時礼」、つまり、あいさつとお辞儀が同時になってしまいます。

試してほしいのですが、歩きながら足を止めずに「あいさつ」をしてみてください。わかっても「同時礼」になってしまいがちです。私自身も、歩きながら足を止めずに「先言後礼」ができるまで1ヶ月間意識し続け、やっと自然にできるようになった経験があります。

よいあいさつの習慣づくりのためにも、歩きながら足を止めずに「先言後礼」ができるか、ご家族で試し合ってみてください。

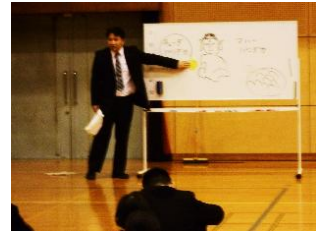
【試してみよう】 ※「あいさつ」と「お辞儀」が一緒にならないか試してみよう !!

- ① 歩いていく方向に誰かに立ってもらいます。
- ② 止まらずに「先言後礼」します。



黙働について

右の写真は、4月13日(月)の1年生の全校集会の中で行った「心を磨く掃除『黙働』」の説明の様子です。ここ5年間、必ず入学式の次の日に校長が1年生に対し「黙働」の意義や意味について説明しています。黙働の取組も5年目を迎え、年々、生徒たちの掃除の姿がよくなっていることを実感しています。



学校教育の中で、掃除時間を決め、生徒が掃除を行う国は、日本と韓国と中国の一部くらいだそうです。(現在、タイやサウジアラビア等の数ヶ国が日本の掃除を真似ようと取組始めています。)その理由は儒教と仏教の文化が流れている国だからです。(ちなみに、キリスト教圏の国などでは、掃除夫を雇い、子どもが掃除をすることはありません。)そもそも日本の学校の起源は、お寺です。昔の子どもは寺子屋で読み・書き・計算を学びました。お寺の修行で一番に行われ、大切にされていることは今も昔も「掃除」です。

そして、掃除の第一義は「使った所をきれいにすること」ではなく、下に示したように「①人格形成」なのだそうです。

- ①掃除した人の心がきれいになる。
- ②掃除した場所がきれいになる。
- ③見た人の心がきれいになる。
- ④社会全体がきれいになる。

【お寺が「掃除」を人格形成のための第一義としているきっかけのお話】

お釈迦様の弟子に、ある兄弟がいました。聡明な兄のマハー・パンダカ(摩訶槃特:16羅漢の一人)はお経の勉強もよくできましたが、弟のチューダ・パンダカ(周梨槃特:16羅漢の一人)はお経の短い文句一つも覚えられません。チューダが弟子をあきらめて故郷に帰ろうとしたとき、お釈迦様は「おまえはお経の勉強はいいから掃除をやりなさい。目につくところをきれいにしなさい。」と言われたそうです。それからチューダは「塵(ちり)を払い、垢(あか)をのぞく。」と言いながら、黙々とそこら中を掃除して回りました。人が汚したもので何でも一生懸命に掃除をしてきれいにして回ったのです。そうしている内に誰からも慕われるやさしい人となり、悟りを開くまで至ったそうです。

「黙働」は掃除専用の言葉で、チューダ・パンダカの姿を表した言葉なのだそうです。

近年、脳科学の研究で、掃除することで脳の前頭葉(良心・判断力を司る部位)がよく働くようになり、人格形成や思考力の形成によいことが明らかになっています。そのためか、最近は、主婦向けの雑誌の中に、「子どもに伝えたい掃除の大切さ」といった見出しで、掃除が様々な能力を高めることが紹介され始めました。実際、メジャーリーガーの大谷選手など、第一線で活躍されている人の多くは、掃除に関するこだわりが強く、きちんと道具の整理や掃除をしているそうです。また、高校の部活動の強豪校の多くは、掃除がしっかりできるから強くなるとも言われます。

掃除時間はいわば「己との勝負」の時間とも言えます。松ヶ江中学校でも、4年前から「黙働」の取組をしています。そのためか、生徒たちの掃除の様子をみると、「黙って掃除をする」から、自分自身と向き合い、己に厳しく掃除に取り組む「黙働(チューダパンダカのような姿)」になっていると感じられる生徒も増えてきています。最近では、この本校の取組が小学校にも採用され、松ヶ江中学校区の共通の取組として松ヶ江北小学校、松ヶ江南小学校でも行われて始めました。

「あいさつ」もですが、「掃除」も頑張れば、自分の人生の成功につながるものです。ぜひ、自分自身のためにがんばってほしいと思います。

※ ちなみに、「家の掃除」は「きれいにすること」が意義で、学校の掃除とは意義が違います。ただ、家の掃除・整理整頓は、脳の活性化につながり、アンテナ力の向上等にもつながります。

※ 15年程前ですが、「トイレの神様」という曲が流行りました。これは日本の修験道の逸話から生まれた話です。医療機関がなかった昔(少しの体調不良で命を落としていた時代)、「^{かわや}厠(トイレ)をきれいにすることで、家族の体調不良に気付け、家族の命を守ることに繋がっていた」という意義のお話です。